治療のためスルバシリン静注用を使用された患者さんへ

福岡東医療センター 薬剤部では以下の研究を実施しています。

この研究は、過去の診療情報を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」と呼ばれる学術活動です。過去に実施された検査の結果等の診療情報等を利用しますので、患者さんに新たにご負担いただく検査や治療はありません。また、学術論文や学会で公表する場合も、個人情報の保護には十分配慮し、第三者には誰のものか一切わからないようにします。

患者さんにはご自身の診療情報が使用されることを拒否する権利があります。本研究の対象に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。既に学会や論文発表が行われている場合はデータを削除できない場合がありますのでご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、患者さんが診療上で不利益を被ることはありません。

【研究課題名】	当院におけるスルバクタム/アンピシリンの規格変更が薬剤費及び投与量に与える影響
【研究実施期間】	倫理委員会承認日～2027 年 3 月 31 日
【研究実施機関・研究責任者】	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター 薬剤部 研究責任者 宮崎 久瑠美
【対象となる方】	西暦 2025 年 1 月 9 日から 2026 年 4 月 8 日に当院にて治療のため入院または通院し、スルバシリン静注用を使用された 600 名前後の方。
【研究の意義、目的、方法】	スルバクタム/アンピシリン（以下、SBT/ABPC）は用量依存的に抗菌効果を示す β ラクタム系抗菌薬であり、腎機能に応じた適正用量での投与が重要です。当院では、2026 年 1 月に SBT/ABPC の採用規格を 1.5g/V から 3.0g/V へ変更しました。従来規格の 1.5g/V では、1 回投与量 3.0g の処方に対し 1.5g/V を 2V 使用する必要があり、薬剤費および調剤業務負担の増加が課題となっていました。また、腎機能が良好な患者さまにおいても 1 回 1.5g 投与に留まる症例が散見され、用量不足による治療効果低下が懸念されていたことから、SBT/ABPC の規格変更が薬剤費、投与量にどのような影響を与えたか、規格変更前３ヶ月間と変更後３か月間を比較することによって評価することといたしました。
【利用する情報の種類】	当院において、スルバシリン静注用を使用された方の診療記録（年齢、体重、性別、既往歴、Ccr、スルバシリン静注用の投与日数、投与回数、投与量）

【個人情報の保護】	研究に際して、生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人が特定できる情報は収集しません。また、研究の結果を公表する際も個人が特定できないよう配慮いたします。
【問い合わせ先】	独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター 研究責任者： 薬剤部　宮崎　久瑠美 住所：〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1 電話番号：092-943-2331（代表）